

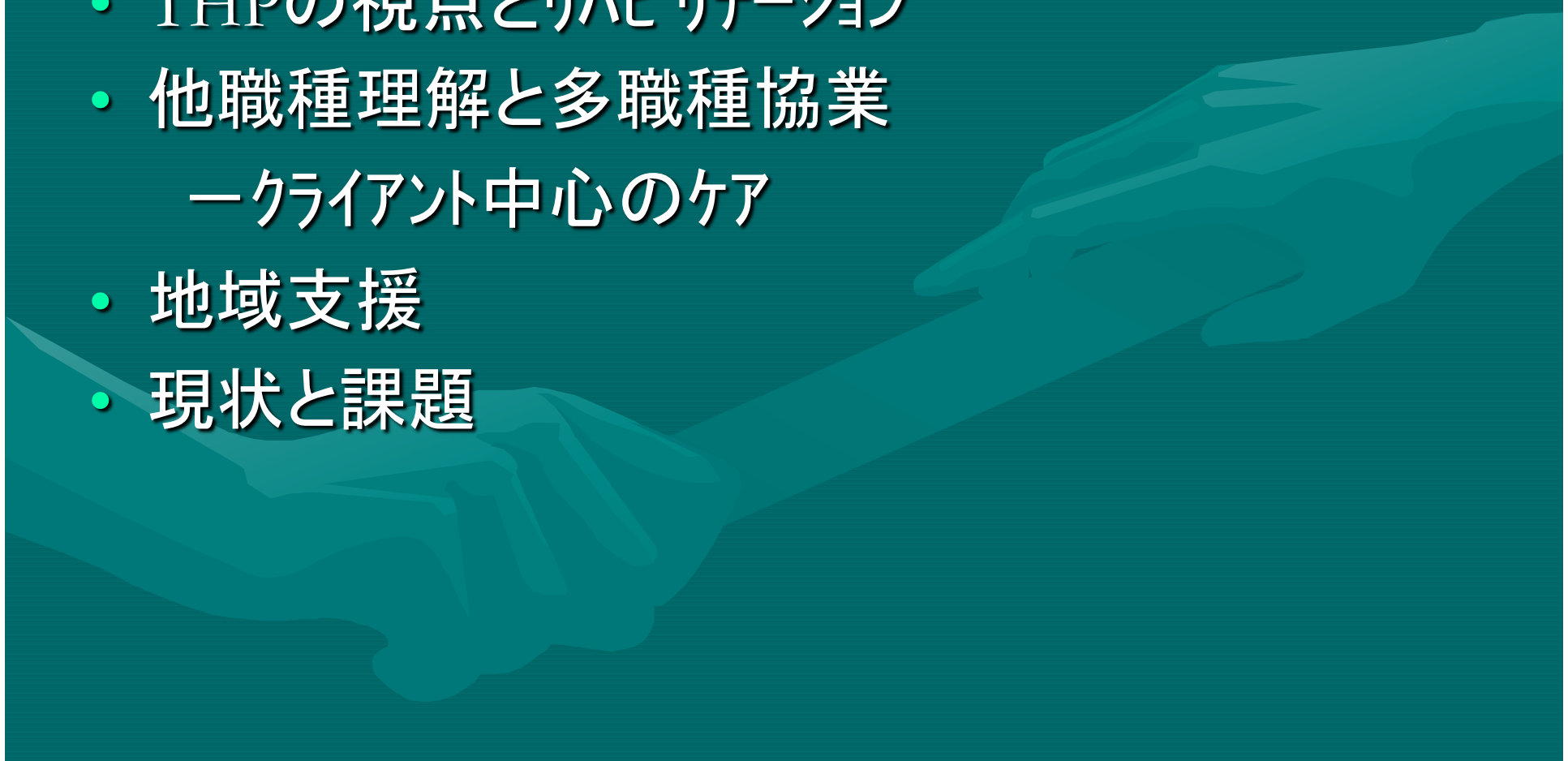


THP養成コースを終えて

THPと地域支援

リハビリテーション療法学専攻 D3
作業療法士 山口 佳小里

内容

- THPの視点とリハビリテーション
 - 他職種理解と多職種協業
—クライアント中心のケア
 - 地域支援
 - 現状と課題
- 

THP トータルヘルスプランナー

地域で暮らす人々がより健康な高齢期を迎える ための社会基盤を多職種協働により構築す る人材

- 在宅医療を要する個人とその家族のライフサイクルを視野に入れ、健康的な生活づくりの援助ができる
- 高齢者の生活全体を視野に入れ、健康的な生活の創出援助ができる
- 疫学統計学的手法を用いて、地域保健政策・臨床研究の企画評価ができる

THPの役割＝広義のリハ

- チームアプローチ(多職種協業)
 - ・・他職種理解
- 目標志向的
- クライアント(対象者)中心

広義のリハビリテーション

- Rehabilitation

語源 rehabilitare (re-habilit-are)

=再び(人として)ふさわしい状態にする

「全人間的復権」「人間らしく生きる権利の回復」

標準リハビリテーション医学 監修 津山直一

⇒ その人らしい生活を支える

その人らしさを支える

- どこで
- だれと
- 何をして

何をして生きてきたか、
何をすることを好むか、
大切なものは何か、

⇒ 対象者の全人的理解に基づく支援

枠組みの違い cure/care

	医療モデル	生活モデル
目的	疾病の治癒、救命	生活の質の向上等
主たる場所	病院	社会(地域など)
適用期	急性期	維持期・慢性期
チーム	医療従事者(命令・指示)オーダertype	他職種(協力・協働)カンファレンス型
捉え方	医学モデル* (病因-病理-発現)	障害モデル*(ICF:国際生活機能分類)

- 医学モデル: 病気が全てを決定する一方向モデル
- 生活モデル: 病気だけでなく背景因子も重視

対象者中心とチームアプローチ



地域における支援



在宅ケアにおけるTHPの働き

目標志向と多職種協業

本来の中心は対象者（患者）
いかにして対象者の本来のニーズを引き出し、
それをチームで共有しながら、
同じ目標に向かって展開していけるか

対象者理解に基づく
チームアプローチの中心的存在
多職種間の連携
（目的志向型）

調整

代替手段の提供

入浴サービスの手配

THPの役割

- クライアント(あるいは家族)の代弁者

クライアント中心を実現するため、彼らの本来のニーズを引き出し、必要な支援、妥当な方向性を見出す。

- 多職種連携のためのコーディネーター

チームアプローチを実現するため、他職種を理解し、目標に向かって適切な職種に対して適切な働きかけができる。

※常に方向性と全体像を見失わないことが重要

現状と課題

- THPのTeamの中での立場
 - 各々の専門職かつTHP
 - THP専門
- 認知度と求められる役割